

フランス文化理解講座

# ルイ14世の大世紀

## とヴェルサイユ宮殿



講師: デュラン・シャルル

日時: 2月11日(火・祝) 10:30~11:45 (受付10:00~)

会場: クロスパルにいがた 4階 映像ホール

◆申し込み・問い合わせ先 参加費300円

(公財)新潟市国際交流協会 申し込みフォーム →

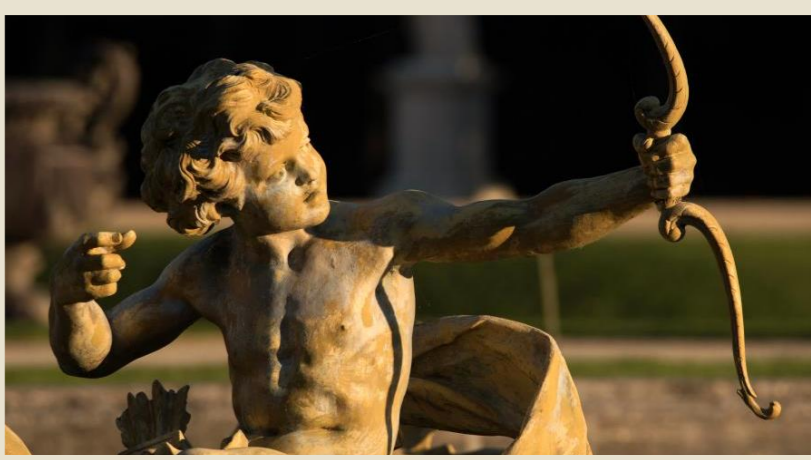
〒951-8055 新潟市中央区礎町通 3-2086

電話: 025-225-2727

メール: kyokai@nief.or.jp



ヴェルサイユ宮殿での生活は? ルイ14世はどんな人? 17世紀の有名なフランス文化は? 全部教えます!



# フランス文化通信

Janvier - Février - Mars 2025



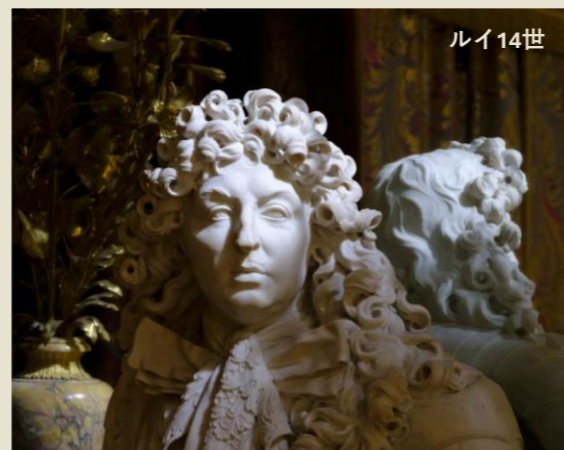
# ルイ14世の赤いハイヒール

17～18世紀のフランスでは、「13センチの赤いハイヒール」は立派な紳士靴だとルイ14世と多くの人が思っていました。

当時のフランスやヨーロッパでは、ヒールのある靴は男性にも人気がありました。ヒールを履くことにより、馬に乗るときに足をアブミに簡単にかけられたり、身長を数センチ伸ばしたり、当時とてもエロティックだと思われていたふくらはぎを美しく見せたりすることができたからです。右のルイ14世の肖像画を見ると分かるように、国王を含め、ふくらはぎを見せるためにタイツを履いていた男性も珍しくありませんでした。

赤いヒールの流行は、ルイ14世の弟であるムッシュ閣下により意図せず始まったものです。ムッシュはお洒落で、パーティーと男性を好み、女性らしく振る舞う男性として知られていました。1662年、このムッシュがパリで夜通しパーティーを楽しみ、肉屋の多かったアール地区で、はしご酒をしました。ムッシュが動物の血が溜まっていたこの不潔な地区の狭い道を歩いたとき、彼の素敵なヒール靴が血で汚れてしまい、赤く染まりました。

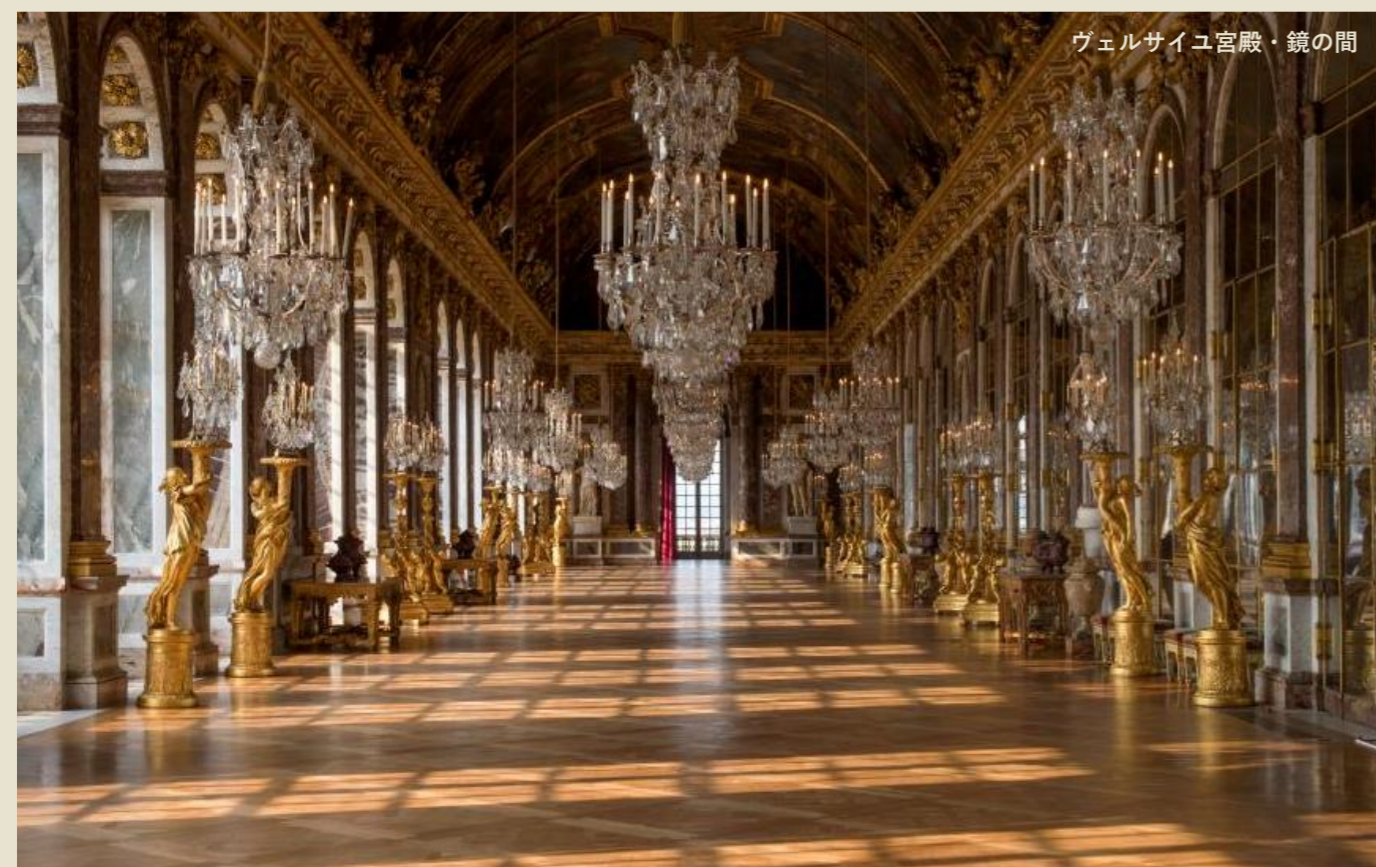
夜明けにこっそりとヴェルサイユ宮殿に帰ってきた彼が、宮殿に着いた途端、兄のルイ14世に閣僚会議に呼ばれました。着替えずに、酔ったまま出席し、大臣たちにずっとじっと見られていました。会議が終わり部屋に戻って、やっと眠りにつきました。しかし。。



ルイ14世



ルイ14世



ヴェルサイユ宮殿・鏡の間

数時間後ムッシュが目を覚ましたら、数人の貴族たちが彼を真似て靴のヒールに赤い革を貼っていたことに気づきました。疲労による幻覚ではなく、二日酔いのせいでもなく、たった数時間だけで新しい流行が生まれたのです。兄のルイ14世もこの赤いヒールを大変気に入りました。しばらくして、赤いヒールを履くためには国王からの許可が必要になり、赤いヒールはステータスのシンボルとなりました。

## 国王の劇場

貴族たちはなぜムッシュをすぐ真似したのでしょうか。ヒールとタイツのほか、ヴェルサイユ宮殿の居住者は、男性を含めて、一流の生地や宝石、レースまで身につけていましたが、それはなぜでしょうか。

起床の儀から始まって就寝の儀で終わっていたルイ14世の一日のすべてのプログラムと行動は、まるで演技のようにルール化されていました。ヴェルサイユ宮殿には、全国の有力者が住んでいたため、複雑な食事マナーや厳しいプロトコルの実施により、貴族たちのあらゆる振る舞いを細かく監督することができ、宮殿が劇場のようでした。

そこで、ヴェルサイユ宮殿に「装いなくして国王の寵愛なし」という暗黙のルールができ、貴族にとって国王の高い美意識を満たすことは、特権や任務を与えられるチャンスでした。このように、豪華な服装の着用を延々と求めることにより、国王は有力者の財産に非常に大きな負担をかけ、敵対する勢力を抑えることができたのです。そのため、ルイ14世の「お洒落」はフランス式の「参勤交代」だと言えます。

エリート階層の象徴だった赤いヒールがフランス革命で禁止され、後にこの派手な男性ファッションがイギリスで簡素化され、現在の紳士服となりました。赤いヒールは、禁止されてから200年後の1992年にクリスチャン・ルブタンにより女性ファッションとして再び誕生しました。

※ 記事 : Charles Durand デュラン・シャルル  
※ 写真 : unsplash.com / chateauversailles.fr

新潟市国際交流協会  
〒951-8055新潟市中央区礎町通3ノ町2086  
Tel : 025-225-2727  
Email : kyokai@nief.or.jp  
フランス文化理解講座:  
www.nief.or.jp/ja/node/151



ヴェルサイユ宮殿・庭園側



ヴェルサイユ宮殿庭園



ヴェルサイユ宮殿庭園の噴水



ヴェルサイユ宮殿・入口側